
関連施設

田上診療所

訪問看護ステーション野の花・訪問リハビリ

わらび苑

院内保育所



関連施設

田上診療所

医事課 濱元 桃子

院長/岩元二郎
 事務長/古元康徳
 看護師長/政田育子
 看護師/光都志子、秋田由紀代、大川鮎美、峯下代美子、
 中崎真美
 医事課/秋田幸子、大久保沙織、児島佑奈、濱元桃子
 リハビリ室/岩崎五月、長田眞里子、上窪典恵



田上診療所は、本年度より院長が竹野先生から岩元先生に変わられました。それと同時に医師の予定変更や、院長がかかげた“4本柱”の「医療安全」、「地域連携」、「院内連携」、「業務改善」をモットーに、毎週火曜日は全体朝礼を行い、毎日スタッフ皆で協力し合い、患者様への医療に携わっております。

田上診療所の長年の魅力の一つでもある、スタッフと患者様の距離感が近いことは、私も入社して1か月経ち実感したことです。患者様から教えて頂くこともあり、私もスタッフの皆さんのように患者様のお役に立ちたいなと思っております。

また、スタッフの皆さんも優しく、丁寧にご指導頂いているおかげで、仕事へ行くのが私の楽しみの一つでもあります。まだまだご迷惑をお掛けすることも多いですが、向上心を持ち、院長先生やスタッフの皆さんとよりよい地域医療ができるよう精進してまいります。

田上診療所の1週間の診療予定

	午前		午後	
月	内科(竹野先生)		内科	小児科(岩元先生)
火	内科	小児科(岩元先生)	皮膚科	
水	内科	小児科(岩元先生)	循環器科	
木	内科・小児科(岩元先生)	皮膚科	皮膚科	
金	内科(竹野先生)		小児科	
土	内科	整形外科	整形外科	

※ 整形外科:月2回(土曜日)です。

※ 発達外来:月2回(月曜日)です。

田上診療所院長 岩元 二郎

令和3年4月より田上診療所の3代目の院長に就任させていただきました。私は南種子町島間出身の小児科医で、平成29年4月に種子島医療センター小児科部長として赴任し、郷里に戻り5年目にして田上診療所の院長という大任を仰せつかりましたが、医療センターの小児科部長も兼務で従事させていただくことになりました。新院長としての抱負を述べさせていただきます前に当院の歴史を簡単に振り返ってみたいと思います。

当院は平成15年4月に中種子町の鎌田医院を引き継ぐ形で新規開設となりましたが、同年3月末に中種子町の開業医である鎌田医院(昭和41年1月ご夫婦で開業、産婦人科と内科を標榜)の他に柏医院(昭和46年5月開業、小児科標榜)の二つの医院が同時に閉院になるという地域医療の崩壊の危機がありました。この窮状を案じた、当時の田上病院理事長の田上容正先生が、鎌田医院(閉院時は鎌田多喜子院長)を引き継ぐ形で田上診療所を開設されました。引継ぎの経緯は、平成15年発行の本誌「飛魚第15号」に掲載されている容正先生の寄稿文(かかる聖医ありき—ある女医さんに捧げる哀悼の辞—)をご参照下さい。

多喜子先生の「遺言」を容正先生が引き継ぐ形で田上診療所が始まった、と鎌田医院時代からの勤務している職員より教えていただきました。また柏医院の柏修先生は中種子町出身の小児科医で、長年種子島の小児医療を牽引していただきましたが、平成15年81歳で自院閉院後は、平成26年92歳で亡くなるまでのおよそ10年間、田上診療所の非常勤(週2日午後)として中種子の小児科診療の灯を灯し続けていただきました。(柏修先生の追悼文も平成26年の本誌第25号に容正先生が寄稿されています。)

平成15年4月設立時の初代院長は恒吉康男先生、2代目は竹野孝一郎先生が地元中種子町出身の内科医として、平成16年4月から令和3年3月まで16年間にわたり中種子町の確固たるかかりつけ医としての重責を果たしてくださいました。本誌をお借りして心より御礼申し上げます。竹野先生には今後も非常勤医師として当院の内科診療の応援をいただくことになっています。

令和3年4月現在、田上診療所が標榜している診療科は内科、小児科、皮膚科、整形外科の4診療科です。

非常勤医師として、内科は竹野孝一郎先生が週2～3回の応援、田上寛容先生が週1回循環器内科(水曜午後)、皮膚科は猿渡邦彦先生(火曜午後)、瀬戸山充先生(水曜午前午後)、整形外科は嶋田博文先生と斎藤嘉信先生(月2回土曜)、そして小児科は常勤の岩元が赴任したことで、毎日午前か午後の枠で月～金の子どものための診療幅を広げました。また専門外来として小児発達外来を新規開設、月2回の金曜午後は医療センター小児科医(岡田聡司、森山瑞葵)の応援があります。

医師以外の職員は、常勤・非常勤も含め、古元康徳事務長、政田育子看護師長と5名の看護師(光都志子、秋田由紀代、峯下代美子、大川鮎美、中崎真美)、事務4名(秋田幸子、大久保沙織、児島佑奈、濱元桃子)、リハビリ3名(岩崎五月、長田真理子、上窪典恵)の14名です。

新院長の抱負としまして、「院内連携」(チームワーク)、「地域連携」(少子高齢化対策としての医療・

関連施設

教育・保健・福祉の四葉の連携)、「医療安全」(Patient Firstで報連相の徹底)「業務改善」(まごころ医療、まごころサービス)の4本柱を掲げました。真新しい目標ではありませんが、田上診療所開設以来17年間の歴史を通して、これまで築いてこられた実績にさらに上乘せし、根を張った幹から枝葉を出して、さらに花を咲かせるように、未来永劫、次代にしっかりとバトンタッチできる繋ぎ役としての仕事ができればと考えています。

直近の課題といえば、少子化対策としての子育て支援の拠点作り、本院(種子島医療センター)と人的交流を含めた更なる連携強化、地域住民の要望に合わせた診療内容の拡充(生活習慣病に特化した専門診療科の増設、リハビリなど)や老朽化した施設の新築移転の問題などに取り組んでいきたいと思ひます。

赤ちゃんから超高齢者まで中種子町の地域医療の灯を絶やすことなく引き継いでいくことが私の使命と思っています。何卒よろしくお願い申し上げます。



関連施設

訪問看護ステーション 野の花

理学療法士 内村 寿夫

管理者/榎本親子
 訪問看護師/西川秋代、鳥巢良子
 理学療法士/中村裕二、内村寿夫、田島拓実
 作業療法士/濱添信人、當房紀人

令和3年度年間目標

- 1.安全で安心できるサービス提供ができる
- 2.働きやすい環境を整える
- 3.個々が事業所の運営を意識した行動ができる

部署紹介

訪問看護ステーション 野の花(以下:野の花)では、今日も北は国上の湊、南は荃永まで元気に種子島全土を訪問しています。利用者の年齢層は0歳~100歳で、幅広い方々に利用して頂いています。

野の花で提供できる医療ケア・支援は以下に記載しました。

- ・医師の指示による診察の補助業務
- ・食事(栄養)指導管理
- ・排せつの介助・管理
- ・床ずれの予防と処置
- ・清拭・洗髪等
- ・症状の観察
- ・リハビリテーション
- ・ターミナルケア

- ・カテーテル等の管理
- ・ご家族等への介護支援・相談

野の花では医師の指示の下、ご自宅で適正な看護やリハビリテーションを提供する在宅支援サービスです。申し込みは主治医、担当ケアマネージャー、訪問看護ステーション野の花へ相談ください。

ところで、野の花の事務所に電話すると、男性のスタッフが対応することがありませんか。お気付きと思いますが、前年度からリハビリスタッフが野の花の事務所で仕事をするようになりました。これにより、看護師とリハビリスタッフの連携は向上し、より利用者に包括的なアプローチが出来るようになったと思います。

今、住み慣れた我が家で過ごしたいと願う人が増えています。近年のコロナ禍において、面会制限により入院を避ける方もいらっしゃると思います。このような状態に、訪問という強みが活かされていくと感じています。

今年度は学会発表に参加を予定しており、院内外に野の花を発信していく予定です。これからも、思いやりの心と技術を研鑽する真摯な姿勢で、住み慣れたお家や地域で安心して過ごせるように健康管理や生活状況の支援に努めていきます。



関連施設

介護老人保健施設 わらび苑

施設長 医師 池村 紘一郎

わらび苑は、医療、看護、介護、リハビリテーションから栄養まで様々な専門職が多職種協働し、要介護・要支援状態にある利用者・家族が安心して生活を続けられるよう支援しております。

スタッフ総数は94名で、医師1名、看護師13名、介護福祉士35名、介護士21名、介護助手2名、理学療法士4名、作業療法士2名、管理栄養士1名、介護支援専門員5名(居宅含む)、支援相談員2名、事務員8名と様々な職種が連携し運営しています。

令和2年度は、「ベッド利用95床の維持」を目標とし運営した結果、95床未達成日が月平均13.0日でした。この結果はコロナ禍で家族の渡航などによりサービス利用制限を要請する等、感染対策を続けた1年だったことを考えると、ベッド稼働率95%以上を維持した上で一月の半分以上目標値を越えたことは目標を達成できたと考えています。このように目標を達成できたことはご利用者ご家族、またその他関係者の皆様のご理解ご協力あっての結果です。

わらび苑は今後も地域に根差した施設となることを目指し、令和3年度は「スーパー老健への移行」を目標に掲げ職員一丸となって進んでまいりたいと思います。

＜令和2年度目標＞

「ベッド利用95床の維持」 *定員97床

＜実績値＞

- ・平均利用床数 94.6床(月平均)
- ・95床未達成日 13.0日(月平均)
- ・ベッド稼働率 97.5%(月平均)



わらび苑のマスコット ヤギのつくし(左)と、わらび(右)

関連施設

院内保育所

主任 大木 鈴香

徳永純子 新原祐子 元川美華 中村智美 北村幸奈

世界中がコロナで大変な中、保育所でも対策をしながら、いろいろな行事を行いました。

〈親子参観〉

これまでは、お父さん・お母さん、そして病院の患者さんに来てもらい“おゆうぎ会”を開催していましたが、今年は密を避け、保育所内で、お父さん・お母さんとゲームをしたり、朝の会やおやつなどの普段の様子を見てもらいました。



〈クリスマス〉

これまでは、クリスマスやハロウィン衣装を着て病棟を訪問していましたが、今年は外から、患者さんや病院で働くみんなにエールを送りました。



